

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前	西本 裕輝		所 属	グローバル教育支援機構	
職 名			職 名	准教授	
領域	業務ウエイト比(予定)	平成28年度 年度目標設定		業務ウエイト比(実績)	平成28年度 年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.25	共通教育においては例年通り「沖縄の学力と教育」等を担当する。専門教育においては教育学部心理臨床科学コースの協力教員として、ゼミ生8名(3年次3名、4年次5名)を指導するとともに、「心理臨床研究計画法」等の必修科目を担当する。大学院においては、臨床心理学専攻の専任教員として大学院生1名(M1)を指導するとともに「学級集団心理学特論」等の科目を担当する。		0.25	今年度は共通教育2コマ、専門教育7コマ、大学院教育3コマを担当した。共通教育において「沖縄の学力と教育」を開講し、約100名の学生が受講した。授業評価の結果から判断すると、評価は高かった。また専門教育においては、「心理臨床研究計画法」等を担当し、これも高い評価を得た。また直接指導にあたっている5名の4年次ゼミ生の就職率も100%(国家公務員1名、小学校教諭2名、大学院進学1名、JICA1名)と好調であった。また大学院においても例年どおり科目を担当し、ゼミで大学院生の指導にもあたった。よって教育の成果としてはおおむね良好であったと思われる。
研究	0.25	今年度の外部資金に関連する研究として、個人研究としては科学研究費補助金(基盤研究C:16K04612)「沖縄の小中学生の学力向上に関する実証的研究～離島・へき地支援を中心に～」に取り組む。また共同研究として「アクティブラーニングによる学士課程教育の刷新とそれを可能にする組織開発」(基盤研究B:15H03488)に研究分担者として参画する。さらに学会活動としては、日本子ども社会学会の理事を務めるとともに、第23回大会を6月に琉球大学で開催すべく大会実行委員長を拝命し、シンポジウムの企画等に従事する。その他、教育学部紀要等に2本以上の論文を投稿する予定である。		0.25	科研費による個人研究では、離島と本島の学力格差の要因を分析するため、本島の公立小学校と離島の公立小学校において調査を実施した。離島へも3回訪問した。また共同研究においては、アクティブラーニングに関する理論研究を推進した。学会活動においては、名古屋大学において開催された日本教育社会学会第68回大会においては「学校(2)部会」の司会を務めた。また2016年に発行された学会誌『教育社会研究(第99集)』においても、書評を担当した。また6月に琉球大学において開催された日本子ども社会学会第23回大会においては、大会実行委員長として公開シンポジウムの企画・運営に関わるとともに大会を成功させた。論文執筆としては、『琉球大学教育学部紀要』に2本の論文を投稿し掲載された。また『大学教育センター報』に2本の論文を、さらに東京書籍の研究組織である中央教育研究所における研究にも参画し、1本の論文を執筆した。以上のように当初の予定を上回る活動に関わったことから、研究成果としてはおおむね良好であったと判断できる。
社会貢献	0.20	学力研究の専門家として、教育委員会等からの講演依頼について対応する。また沖縄県教育委員会委嘱の家庭教育推進委員会委員を引き続き担当する。関連して、岡山県教育委員会から委嘱された学力向上アドバイザーも引き続き担当する。さらに教員免許状更新講習も5コマ担当する。		0.20	講演活動については、沖縄県教育委員会からの依頼を受け、2月に平成28年度沖縄県家庭教育支援フォーラムの講師を務めた。また沖縄大学からの依頼を受け、5月に沖大土曜講座の講師を務めた。委嘱された委員については、岡山県教委において学力向上アドバイザーを務めるとともに、沖縄県教委嘱の家庭教育推進委員会を務めた。特に沖縄県においては「児童生徒の生活実態調査」の企画・立案・分析を担当し、県内の小学5年生、中学2年生とその保護者全員、約6万人を対象とした大規模調査の指揮にあたり、報告書も執筆し3月に刊行された。さらに教員免許状更新講習も例年どおり5コマ担当し、約200名の受講生から高い評価を受けた。最後に、守秘義務があり詳細は記述できないが、日本学術振興会から委嘱された委員も務めた。以上のように当初の予定を上回る活動ができたことから社会貢献の成果は良好であったと思われる。
管理運営	0.30	グローバル教育支援機構授業支援部門長として各種の全学的な委員会活動に携わる。また引き続きURGCC推進支援室室長、授業支援部門会議委員長、グローバル教育支援機構会議委員等を務める。また全学学生教育プログラム委員会副委員長として会議の進行役を務めるとともに、議題についての企画・立案に携わる。さらに新しく立ち上がる大学院教育プログラム委員会においても中心的な役割を担う予定である。		0.30	委員会関係としては、まず全学学生教育プログラム委員会の副委員長として、また今年度新たに立ち上がった、大学院教育プログラム委員会においては、石川学長補佐とともに、議題の調整、立案にかかわるとともに、進行役を務め、両委員会ともに運営面に全面的に関わった。特にその中で、全学的なルーブリック(いわゆるメタ・ルーブリック)を策定できたことは大きな成果であった。さらに3月には学外講師を招聘しての全学的なFD講演会として「大学教育におけるアクティブラーニング」を企画・立案、開催にかかわり、全学的なアクティブラーニングの推進に向けた大きな弾みをつけた。新たに立ち上がった授業支援部門会議については、併任教員も決まり、定期的な開催を始めた。支援室(年度途中で開発室に名称変更)では、大学院生調査、学部生調査、教員調査、授業評価、シラバスチェック等、多くの調査の実施・分析を指揮し、教育改善に役立てるため全プログラムにフィードバックを行った。よって管理運営に関しての成果は良好であったと思われる。
	0.00			0.00	
計	1.00	・ウエイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。		1.00	・ウエイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前	天野 智水.		所 属	グローバル教育支援機構	
職 名	准教授				
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定	業務 ウェイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果	
教育・ 学生 支援	0.20	①共通教育科目「大学教育論」を担当する(後学期1コマ)。前年度に変更した教科書と成績評価基準を引き続き採用する。 ②人文社会科学部研究科・政策評価実践コースの選択科目として「大学組織特論」と「大学教育マネジメント特論」を開講する(予定, 受講者がいる場合)。	0.15	①共通教育科目「大学教育論」を担当した(後学期1コマ)。授業評価を踏まえて昨年度から変更した歯ごたえのある教科書と成績評価基準を用いた。 ②人文社会科学部研究科の選択科目として「大学教育マネジメント特論」を担当した。「大学組織特論」は受講希望者がなかったため開講しなかった。	
研究	0.35	①前年度採択されなかった科研費申請書をURA等の支援制度を活用して全面的にブラッシュアップし、改めて研究代表者として申請する。 ②①で想定しているテーマと強く関連する大学教育ガバナンスに関する共同研究に参加し、学会等で口頭発表を行う。 ③前年度に続き「大学教授職」と「アクティブラーニング」に関する共同研究に参加する。	0.33	①URAの支援制度(前年度申請書を踏まえた助言)を経て科研費を申請した。 ②大学ガバナンスをテーマとする共同研究に参加し日本高等教育学会大会(6月)で口頭発表を行った。 ③研究協力者として2つの共同研究に継続して関わっているほか、広島大学高等教育研究開発センターが主催する国際共同研究推進事業の2つのプロジェクトに班員として関わった。 ④日本高等教育学会が主催する研究交流集会(12月)にて個人研究の発表を行った。	
社会 貢献	0.05	①共通教育科目「大学教育論」を公開授業として登録する。 ②本学訪問校の生徒に対する模擬授業を行う。	0.02	①共通教育科目「大学教育論」を公開授業とし1名の受講者があった。 ②模擬授業の機会はなかった。	
管理 運営	0.40	①授業支援部門教員あるいは全学学士教育プログラム委員として、FD、初年次教育科目、ポリシー策定に携わる。 ②アドミッション部門教員として入試方法の調査に携わる。 ③共通教育部門教員としてクォーター制の検証に携わる。 ④評価センター企画員、IR推進室員、学生生活委員を務める。	0.50	①「初年次教育における能動的学習の導入に関する基本的な考え方」と「体系的な教職員研修プログラムの開発および実施に関する検討委員会」答申の原案作成と取りまとめを行ったほか、新任教員研修の講師(90分)を務めた。 ②アドミッション副部門長として人事や部門会議に関与し、また、高大接続事業(大学紹介やワーキンググループ立ち上げ)に携わった。 ③クォーター科目受講者調査の調査設計と分析を行った。 ④評価センター企画員、IR推進室員、学生生活委員を務め、認証評価にかかる自己評価書執筆に加わった。	
	0.00		0.00		
計	1.00		1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。			<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)						
名 前		葦原 恭子	所 属	グローバル教育支援機構	職 名	准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果	
教育・ 学生支援	0.30	<p>1.共通教育科目「日本語ⅢA/ⅣA」及びセンター提供科目「日本語聴解」「アカデミック日本語」を担当する際、学生のニーズ及びレディネス調査を十分に行い、自主作成教材を使用し、質の高い授業を行う。課題を適宜提示し、フィードバックを適切に行うことで学生の能力を効果的に向上させる。</p> <p>2.大学進学を希望している科目等履修生には日本語試験に関する質問を適宜受け付け、自主学習の手助けをし、卒業後に日本または沖縄で就職を希望している短期留學生の就職相談に応じる。</p> <p>3.日本語教育副専攻の日本語教授法の講義で学生のニーズとレベルに合わせるため、自主作成教材を使用し、質の高い授業を行う。また、学生の進路相談に応じ、ニーズに合わせて適切なアドバイスをする。</p> <p>4.アジア人財プログラムの修了生に追跡調査を実施し、ビジネス日本語教育の向上のみならず、修了生の定着支援に貢献する。</p> <p>5.センター提供日本語科目を受講希望の大学院生、研究生の日本語コースのコーディネータとして履修指導を行う。履修中は、博士論文、修士論文、レポート、研究発表用資料などの日本語添削と発表指導を行い、論文完成の一助となるべく務める。</p>		0.30	<p>1.共通教育科目「日本語ⅢA/ⅣA」及びセンター提供科目「日本語聴解」「アカデミック日本語」を担当する際、学生のニーズ及びレディネス調査を十分に行い、自主作成教材を使用し、質の高い授業を行うように努めた。課題を適宜提示し、フィードバックを適切に行うことで学生の能力を効果的に向上させるよう努めた。日本語ⅢAについては、受講生による高評価に伴い、2015年度プロフェッサー・オブ・ザ・イヤーを受賞した。</p> <p>2.大学進学を希望している科目等履修生には日本語試験に関する質問を適宜受け付け、自主学習の手助けをし、卒業後に日本または沖縄で就職を希望している短期留學生の就職相談に応じた。その結果、指導教員をしている科目等履修生1名は琉球大学観光科学部に合格した。また、指導した学生の多くが就職支援プログラムに参加し、インターンシッププログラムや就職活動に取り組んだ。</p> <p>3.日本語教育副専攻の日本語教授法の講義で学生のニーズとレベルに合わせるため、自主作成教材を使用し、質の高い授業を行うよう努めた。また、学生の進路相談に応じ、ニーズに合わせて適切なアドバイスをし、受講生2名を沖縄県内および東京都内の日本語学校に就職させるべく尽力し内定を得た。</p> <p>4.アジア人財プログラムの修了生2名及び沖縄及び東京で就職している元STRP交換留學生に追跡調査を実施し、ビジネス日本語教育の向上のみならず、修了生の定着支援に貢献するよう努めた。</p> <p>5.センター提供日本語科目を受講希望の大学院生、研究生の日本語コースのコーディネータとして50名に対して、履修指導を行った。履修中は、博士論文、修士論文、レポート、研究発表用資料などの日本語添削・英語添削と発表指導を行い、論文完成の一助となるべく務めた。</p> <p>6.カリキュラム改革に伴い、受け入れワーキンググループの一員としてプレースメント実施案を作成した。</p>	
研究	0.30	<p>1. 科学研究補助金基盤研究(c)「高度外国人材に求められるビジネス日本語フレームワーク構築のための調査研究」課題番号15K02644の研究代表者として、研究を統括し、10回の研究会を実施する。</p> <p>2. 1の研究成果を2016年日本語教育国際研究大会(於・インドネシア)で口頭発表するため応募する。</p> <p>3. 戦略的研究推進経費・戦略プロジェクト研究チームの一員としてアルゼンチンで調査研究を実施する。 調査結果は国際沖縄研究所移民研究部門の紀要に投稿する。</p> <p>4. センター紀要にビジネス日本語教育に関する研究論文を投稿する。</p> <p>5. 沖縄県日本語研究研究会で1の科研費研究の研究成果の一部を口頭発表する。</p> <p>6. 沖縄外国文学会に沖縄の地域共通語に関する研究論文を投稿する。</p>		0.30	<p>1. 科学研究補助金基盤研究(c)「高度外国人材に求められるビジネス日本語フレームワーク構築のための調査研究」課題番号15K02644の研究代表者として、研究を統括し、12回の研究会を東京都及び沖縄県で実施し、研究を進めた。</p> <p>2. 1の研究成果を2016年日本語教育国際研究大会(於・インドネシア)で口頭発表するため応募し、採択され、2016年9月10日に学会発表をした。</p> <p>3. 戦略的研究推進経費・戦略プロジェクト研究チームの一員としてアルゼンチンで調査研究をした結果を、研究論文としてまとめ、琉球大学沖縄移民研究センター紀要である『移民研究』に投稿し、掲載された。</p> <p>4. 国際教育センター紀要創刊号に1の科研費研究に関するビジネス日本語教育についての研究論文を投稿し、掲載された。</p> <p>5. 沖縄県日本語研究研究会で1の科研費研究の研究成果の一部を口頭発表した。</p> <p>6. 沖縄外国文学会に沖縄の地域共通語に関する研究論文を投稿し、査読を経て採択され、『Southern Review』に掲載された。</p> <p>7. 年報・紀要編集委員長として、年報を編集・発行し、紀要を編集・発行した。</p>	
社会 貢献	0.20	<p>1. インターンシッププログラムのコーディネータとして、琉球大学日本企業インターンシッププログラムを実施し、沖縄県内で就職意欲がある留學生を発掘し、県内企業に優秀な留學生を就職させるべく努力する。</p> <p>2. 文部科学省の住環境・就職支援等留學生の受け入れ環境充実事業コーディネータとして事業の運営、発展に努める。</p> <p>3. 2の事業について28年度の成果を留學生交流実務担当者養成プログラム(報告会)等にて発表する。</p>		0.20	<p>1. インターンシッププログラムのコーディネータとして、琉球大学日本企業インターンシッププログラムを就職支援プログラム担当者として協力しつつ、実施し、沖縄県内で就職意欲がある留學生を発掘し、県内企業に優秀な留學生を就職させるべく努力した。</p> <p>2. 文部科学省の住環境・就職支援等留學生の受け入れ環境充実事業コーディネータとして事業の運営、発展に努めた。</p> <p>3. 2の事業について28年度の成果を留學生交流実務担当者養成プログラム(報告会)等にて発表した。</p> <p>4. 2の事業の発展のため、東京における留學生向け人材派遣会社、留學生を受け入れている企業を訪問し、留學生の就職支援に関する情報収集をした。</p>	
管理 運営	0.20	<p>1.STRPプログラム及びURSEPプログラムの受け入れ担当教員としての責務を果たす。また、協定校を訪問し、留学フェアに参加する、説明会を開催するなどして、交換留学による交流を促進し、交換留學生の獲得に努める。</p> <p>2.短期留学プログラム実施委員会の委員として、与えられた職務を全うする。</p> <p>3.国内の進学説明会に積極的に参加し、学生の獲得に努める。</p> <p>4. 既に任命されている学内委員としての職責を果たす。特に調査関係の業務では真摯に務めを果たす。</p> <p>5.JASSOの奨学金獲得のために、獲得に貢献すべく、申請書類等を作成する。</p>		0.20	<p>1.STRPプログラム及びURSEPプログラムの受け入れ担当教員としての責務を果たした。また、ミシガン州立大学、ハワイ大学(マノア、カウアイ、ヒロ)といった協定校を訪問し、留学フェアに参加する、説明会を開催するなどして、交換留学による交流を促進し、交換留學生の獲得に努めた。その結果、ハワイ大学とミシガン州立大学からの交換留學生のURSEP及びSTRPへの応募があった。</p> <p>2.短期留学プログラム実施委員会の委員として、与えられた職務を全うした。</p> <p>3.東京で開催された進学説明会に積極的に参加し、学生の獲得に努めた。</p> <p>4. 既に任命されている学内委員としての職責を果たした。特に調査関係の業務では真摯に務めを果たした。</p> <p>5.JASSOの奨学金獲得に貢献すべく、申請書類等を作成した。その結果、STRP、インターンシッププログラム、アジア双方向プログラムで奨学金を獲得した。また、昨年度の実施報告書も作成した。</p> <p>6.文科省の新たな就職支援プログラムの補助金を獲得すべく、申請書作成に参加し、貢献した。</p> <p>7.戦略1のワーキンググループ教員としてミーティングに欠かさず参加し、ハラオ、マーシャル、ミクロネシアを訪問し、琉球大学・沖縄・交換留學生プログラム紹介をした。</p> <p>8. 留學生文化祭の運営に関わり、与えられた職務を全うした。</p>	
	0.00			0.00		
計	1.00	<p>・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。</p> <p>・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。</p> <p>・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。</p>		1.00	<p>・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。</p>	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前		佐々木 香代子	所 属		グローバル教育支援機構
職 名				准教授	
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果
教育・ 学生 支援	0.20	①授業内容およびレベルが履修登録した学生のニーズに合うよう、授業実施前にアンケートを行い、その結果を基にシラバスに適宜変更を加える。あるいは、学習者の反応を見て教材に修正を加えるなど授業の質の向上に努める。 ②「留学生を受け入れている指導教員のためのインフォメーションブック」を更新する。 ③学内外からの進学についての問い合わせに対応し、指導する。 ④県内の日本語学校に、オープンキャンパスの案内を出し、オープンキャンパスに来訪した留学生に情報を提供する。また、日本人学生に対しては、「短期留学」の宣伝に努める。		0.20	①授業内容およびレベルが履修登録した学生のニーズに合うよう、授業実施前にアンケートを行い、その結果を基にシラバスに適宜変更を加えた。また、学習者の反応を見て教材に修正を加えるなど授業の質の向上に努めた。 ②ホームページリニューアルのため、「留学生を受け入れている指導教員のためのインフォメーションブック」は更新できなかった。 ③学内外からの進学についての問い合わせに対応し、指導した。 ④入試課が作成したオープンキャンパスのポスターを留学生用に手を加え、県内の日本語学校に送付した。オープンキャンパスに来訪した留学生に情報を提供する一方、日本人の高校生に対しては、「短期留学」の宣伝に努めた。
研究	0.30	①(沖国大の)共同研究者とともに、沖縄語の継続調査・研究を引き続き行い、論文にまとめる。 ②「研究①」の共同研究者とともに開発を進めている「外国人のための沖縄語学習教材」の出版の段取りをつける。		0.30	①(沖国大の)共同研究者とともに、沖縄語の継続調査・研究(県内在住外国人の沖縄語理解調査)を行い、途中経過をまとめ、研究ノートとして沖国大の紀要に投稿・受理された(印刷中)。 ②「研究①」の共同研究者とともに開発を進めている「外国人のための沖縄語学習教材」を出版するための見直し作業を行った。
社会 貢献	0.30	①「知的障害児の言語獲得をサポートするための絵教材」を、学外の障害児教育従事者と連携しながら開発を進め、HPIにUPし、知的障害児の教育に携わる人々が自由に利用できるようにする。 ②県内の特別支援学級で使用する知的障害児の学習のためのプリント教材を作成する。支援学級の先生方からフィードバックをいただき、手直したものを①のHPIにUPし、知的障害児の教育に携わる人々が自由に利用できるようにする。 ③「留学生のための災害対応マニュアル」を地域在住外国人向けに手直しし、留学生センターHPIにUPし、災害時の対応について外国人が自由に情報入手できるようにする。		0.30	①前年度に引き続き、「知的障害児の言語獲得をサポートするための絵教材」を、学外の障害児教育従事者と連携しながら開発を進め、HPIにUPし、知的障害児の教育に携わる人々が自由にできるようにした。 ②県内の特別支援学級で使用する知的障害児の学習のためのプリント教材(文字を書く、文を書く練習プリント)を作成した。支援学級の先生方からフィードバックをいただき、手直したものを①のHPIにUPし、知的障害児の教育に携わる人々が自由に利用できるようにした。 ③「留学生のための災害対応マニュアル」の地域在住外国人向けバージョンは完成できなかった。 ④知的障害児のための教科学習用AR教材および3D教材の開発を始めた。理科の学習項目を使って試作版を作成し、特別支援学級で動作の確認を行い、学級担任からフィードバックを受けた。
管理 運営	0.10	①ハラスメント相談支援センター相談員として、対応に努める。 ②日本語教育副専攻の副主任として、学生の履修指導およびカリキュラムの調整に努める。		0.10	①ハラスメント相談支援センター相談員として対応に努める一方、ハラスメント調査委員会の委員としても対応した。 ②日本語教育副専攻の副主任として、学生の履修指導を行った他、他の副専攻担当者とともにカリキュラムの改革を行った。 ③グローバル教育支援機構アドミッション部門の教員採用人事において、選考委員として特命教員の選考に関わった。
国際 交流	0.10	①地域の小中高等学校の児童・生徒と留学生との交流を図る。 ②久米島ホームステイを9月9日～12日に実施する。ステイ期間中に留学生と久米島高校の生徒が交流できるように、久米島高等学校と調整する。 ③留学生まつりを7月9日(土)に実施し、留学生と地域の人々との交流を図る。 なお、病気や事故などが起きないよう、留学生の指導に努める。		0.10	①本島内では行わず、②のホームステイ中に、久米島高校の生徒と留学生との交流を行った。 ②久米島ホームステイを9月9日～12日に実施した。久米島高校と調整し、ステイ初日に留学生と久米島高校の生徒の交流会を実施した。 ③留学生まつりを7月9日(土)に実施し、留学生と地域の人々との交流を図った。病気や事故などが起きないよう、留学生の指導に努めた。
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。		1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		山元 淑乃	所 属		グローバル教育支援機構	職 名		講師
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果			
教育・ 学生支援	0.20	<ul style="list-style-type: none"> 日本人学生と留学生の合同授業の開講に取り組む。 協働学習による学習者主体の授業を行う。 初級、初中級コースのコーディネーターとして、非常勤教員と連携し、日本語カリキュラムを運営、改訂する。 		0.20	<ul style="list-style-type: none"> 日本人学生と留学生の合同授業開講に向け、カリキュラム改革に合同授業を組み込んだ。 担当した全ての授業に協働学習を取り入れ、学習者主体の授業を行った。 グローバル教育支援機構提供の日本語科目に関して、大規模な改革を企画し、ワーキンググループのメンバーと協力し、実現した。 			
研究	0.50	科研と博士論文の研究テーマである「日本語学習者の発話キャラクタ獲得過程とその要因の解明」に関する研究を進める。		0.40	科研と博士論文の研究テーマである「日本語学習者の発話キャラクタ獲得過程とその要因の解明」に関する研究を進め、関連する論文を3本執筆した。そのうち1本は紀要に掲載され、1本は学会誌に投稿後審査待ちであり、1本は来年度に著書(共著)として刊行予定である。			
社会貢献	0.10	<ul style="list-style-type: none"> 授業を一般市民に公開し、留学生とディスカッションする機会を提供する。 地域と留学生の交流活動を企画、実施する。 		0.20	<ul style="list-style-type: none"> 授業を一般市民に公開し、留学生と地域の方々がディスカッションできる機会を提供した。 留学生の自己表現と、地域と留学生の交流を目的とした「留学生文化祭」を、ワーキンググループのメンバーと協力して実現した。 			
管理運営	0.05	<ul style="list-style-type: none"> 短期留学プログラム実施委員会の一人として、委員会に参加する。 URSEPプログラム、進学前予備教育コースのコーディネーターとして責任を果たす。 入試業務の責任を果たす。 		0.05	<ul style="list-style-type: none"> 短期留学プログラム実施委員会のメンバーとして委員会に参加し、責任を果たした URSEPプログラム、大学院進学前予備教育コースのコーディネーターとして責任を果たした。 入試業務に関して責任を果たした。 			
国際交流	0.15	<ul style="list-style-type: none"> 日本で進学や就職の希望を持つ交換留学生を積極的に支援し、優秀な人材の確保に貢献する。 外国語ユニットの教員と連携し、日本人学生の海外留学派遣を促進する。 URSEPプログラムへの留学生獲得を目指し、プロモーション活動を行う。 		0.15	<ul style="list-style-type: none"> 日本で進学や就職を希望するURSEP留学生を指導し、支援した。 外国人ユニット教員や国際連携推進課と連携し、日本人学生の海外留学派遣を促進する活動に参加した。 中期目標戦略1のワーキンググループメンバーとして、島嶼地域からの留学生獲得に向けて、パラオとマイクロネシアとマーシャルでプロモーション活動と行った。 			
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 		1.00	<ul style="list-style-type: none"> ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 			
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前	名嶋 義直		所 属	グローバル教育支援機構		職 名	教授	
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果			
教育・ 学生支援	0.30	<ul style="list-style-type: none"> EUで展開している民主的シティズンシップ教育の観点を取り入れた日本語教育を実施する。 前任校で従事してきた日本語教員養成の経験を生かし、留学生にも日本語教育副専攻学生にも有意義な授業を展開する。 これまで培った国内外のネットワークを活用し日本語教育を志す人材の指導支援を行う。 可能であれば、大学院教育にも積極的に関わり、これまでの研究教育成果を教育や研究指導に活かしたい。 		0.30	<ul style="list-style-type: none"> 共通教育科目「総合日本語C・D」、留学生ユニット提供科目「総合日本語5・6」で、民主的シティズンシップ教育の観点を取り入れ批判的な読解能力を伸ばすための授業を行った。 日本語教育副専攻授業「日本語教材研究1・2」を行った。来年度からは授業科目を増やしより内容の充実を図る。 2016年5月と2016年10月に開催された日本語教育学会にて、学会から依頼を受け、日本語教育を志す若手に対し助言を行う企画に参加した。 今年度の大学院授業担当は制度上実現しなかったが来年度から担当することが決定済み。 			
研究	0.30	<ul style="list-style-type: none"> 批判的メディアリテラシーに関する共著書籍を編著者として出版する。単行本収録論文を複数本公開。 科研費研究で一橋大学の教員とメディアの言説を言語学的に分析する共同研究を実施。 ベルリン自由大学、ハンブルク大学、ICU、大阪学院大学(名誉教授)と批判的談話分析・民主的シティズンシップ教育に関する共同研究実施 7月(香港)。9月(韓国)で開催予定の国際シンポジウムで口頭発表を行う。 韓国日本語学会一般理事、日本語教育学会理事、日本語用論学会運営委員。 		0.30	<ul style="list-style-type: none"> 批判的メディアリテラシーに関する共著書籍を編著者として出版。 改憲に関するメディア言説を批判的談話分析の手法で分析した共著を出版。 単行本・雑誌収録の研究論文を3本、書評論文を1本公開。 「わたしは「共に生きている」か ベルリン自由大学、ハンブルク大学、ICU、大阪学院大学(名誉教授)と批判的談話分析・民主的シティズンシップ教育に関する共同研究実施。ベルリン自由大学でワークショップを開催し、教育機関見学を実施した(ドイツ地元テレビと新聞社の取材を受けた)。 2016年7月(香港)。9月(韓国)、11月(香港)で開催の国際シンポジウムで口頭発表を行った。 2017年2月に言語文化教育研究会で口頭発表を行った。 第23回ドイツ圏大学日本語教育研究会シンポジウム講師(招聘)を務めた。 韓国日本語学会一般理事、日本語教育学会理事、日本語用論学会運営委員。 			
社会 貢献	0.20	<ul style="list-style-type: none"> 日本語教育学会の活動を通し、言語系学会との連携協力活動を推進。 日本語教育学会の活動を通し、社会に日本語教育を広める活動を実施。 研究成果を学会内・研究者間に留めず、学際的な研究会等に参加し発信 県内NPO等とのネットワーク構築に努め、次年度以降の活動につなげる。 		0.20	<ul style="list-style-type: none"> 日本語教育学会の理事として、言語系学会との連携協力活動を行った。 日本語教育学会の活動を通し、社会に日本語教育を広める活動を実施。 研究成果を学会内・研究者間に留めず、学際的な研究会等に参加し発信した。 出版社主催の一般向けワークショップに講師として参加し日本語教育の啓蒙を行った。 県内日本語学校等とのネットワーク構築に努めた。 日本科学者会議沖縄支部主催の研究交流会で講師を務めた。 			
管理 運営	0.20	<p>本年度着任のため学内委員会委員等には任命されていないが、留学生ユニット内にて、紀要担当・研究会担当の役割を担う。</p>		0.20	<ul style="list-style-type: none"> 人事関連の委員会委員を複数務めた。 カリキュラム統合のワーキンググループ委員を務めた。 留学生文化祭のワーキンググループ委員を務めた。 研究会と紀要の担当を務めた。 			
	0.00			0.00				
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 		1.00	<ul style="list-style-type: none"> ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 			
<p>※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。</p>				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)											
名 前		KEVIN MICHAEL WATSON		所 属		外国語センター		職 名			
領域		平成28年度 年度目標設定				業務ウエイト比(実績)		平成28年度 年度末自己点検結果			
教育・学生支援	0.65	At present, I teach 8 full course periods in a week which accounts for approximately 12 - 13 direct contact hours with students. This, combined with approximately triple the amount of time spent counseling hours for academic counseling, employability counseling, academic discussion, and academic process writing, equates to 36 full contact hours per week. In addition, I am also working approximately 12 - 15 hours for feedback and curriculum design per week. This includes materials design and test instrument design.				0.65	This was a very productive year for me and included new and innovative teaching methods. These methods include the use of learning pods, teaching with new forms of technology, integrative physical and mental teaching of learning skills and a focus on lifelong learning development through reflection and hypothesis testing". I taught 8 full course periods in a week which accounted for approximately 12 - 13 direct contact hours with students. This, combined with approximately triple the amount of time spent counseling hours for academic counseling, employability counseling, academic discussion, and academic process writing, equated to 36 full contact hours per week. In addition, I worked approximately 12 - 15 hours for feedback and curriculum design per week. In addition to this I worked with special needs students outside of class that needed assistance for varying levels of academic difficulties. I also taught one extra section of "Advanced English Seminar" for a special needs student in order to facilitate his graduation.				
	0.20	I am planning to publish 3 articles this coming year. It is my intention to publish teacher education training study that I am currently working on with my colleague from the University of Hawaii and to also publish the integration/self-access study data. I will also be attending JALT PANSIG in Okinawa in May, ICOFE conference in July in Hong Kong, and JALT National in October. Further, I will be presenting at the Global Education conference in June at Lakeland College in Tokyo on cultural learning and also presenting at JALTCALL/Brain-based Learning conference in Tokyo on integrated reflective learning. All of these conferences are fully confirmed!				0.20	I am planning to publish 3 articles this coming year. It is my intention to publish teacher education training study that I am currently working on with my colleague from the University of Hawaii and to also publish the integration/self-access study data. I will also be attending JALT PANSIG in Okinawa in May, ICOFE conference in July in Hong Kong, and JALT National in October. Further, I will be presenting at the Global Education conference in June at Lakeland College in Tokyo on cultural learning and also presenting at JALTCALL/Brain-based Learning conference in Tokyo on integrated reflective learning. All of these conferences were highly successful and contribute to my own integrated learning model that will be the basis of my PhD thesis.				
	0.05	It is my intention to continue my international culture study that impacts the society in terms of community here in Okinawa and seeks to contribute to society with the development of bonds that transcend cultures and help to develop cultural understanding at the grassroots level. I spend about 3 hours per week in this role and look to strengthen community bonds. In addition, I am contributing to society through my pursuits in teacher training and assisting graduates with job search counseling				0.05	The Development of my research study and the impact of my interactions within both the Japanese and the US military community have gone well. In addition to my study I have also arranged cultural and educational visits for Ryudai students to visit American elementary and high schools in order to not only facilitate better cultural relations but also to help students develop modern view of teaching methodology and to compare that they are learning in Japan with what is actually happening in US Schools. I spent my planned 3 hours per week on most occasions but some weeks spent as much as 5 hours per week in this capacity. In addition, I worked with several students on job search processes and applications to foreign universities.				
	0.10	My administrative role encompasses several areas. First, I am developing several administrative materials in relation to my professional practice and work diligently as a member of the BC College of Teachers in Canada. In Okinawa my intention is to promote, plan and implement overseas study programs to Canada. I have already taken one study group to Canada that focuses on education, recreation, culture and identity to Vancouver. It is my intention to take both summer and spring groups. It is also my intention to work administratively to create international partnerships between UBC and Langara College in Vancouver, Canada. This is a long process and takes much time and effort in understanding the needs of institutions and individual students. I spend about 40 hours per semester on these endeavors. I am also allocated to the Exam creation committee and work to create a viable instrument for the entrance exam as part of a fully functioning team.				0.10	My administrative role was busy this past year. In Okinawa I promoted, planned and implemented 2 overseas study programs to Canada. This included full orientations and support to students in Canada. These groups focused on education, recreation, culture and identity in comparison to Japan. I took two groups that increased from 10 -15 participants. I also had productive introductory meetings with Langara College, University of British Columbia, and Simon Fraser University representatives regarding sister school relationships and more long-term exchanges. This is a long process and takes much time and effort in understanding the needs of institutions and individual students. I spent about 40 hours per semester on these endeavors. I was also involved in teacher training workshops for Okinawan elementary school students and provided support and educational training for Okinawan teachers as they transition to teaching English. This was unexpected but was a welcome component of my work at the university level. Supporting the education system is worthwhile and is an investment in the creation of future Ryudai students.				
	0.00					0.00					
計	1.00	・ウエイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。				1.00	・ウエイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。				
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。						<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。			